

ドイツのキャリア教育について

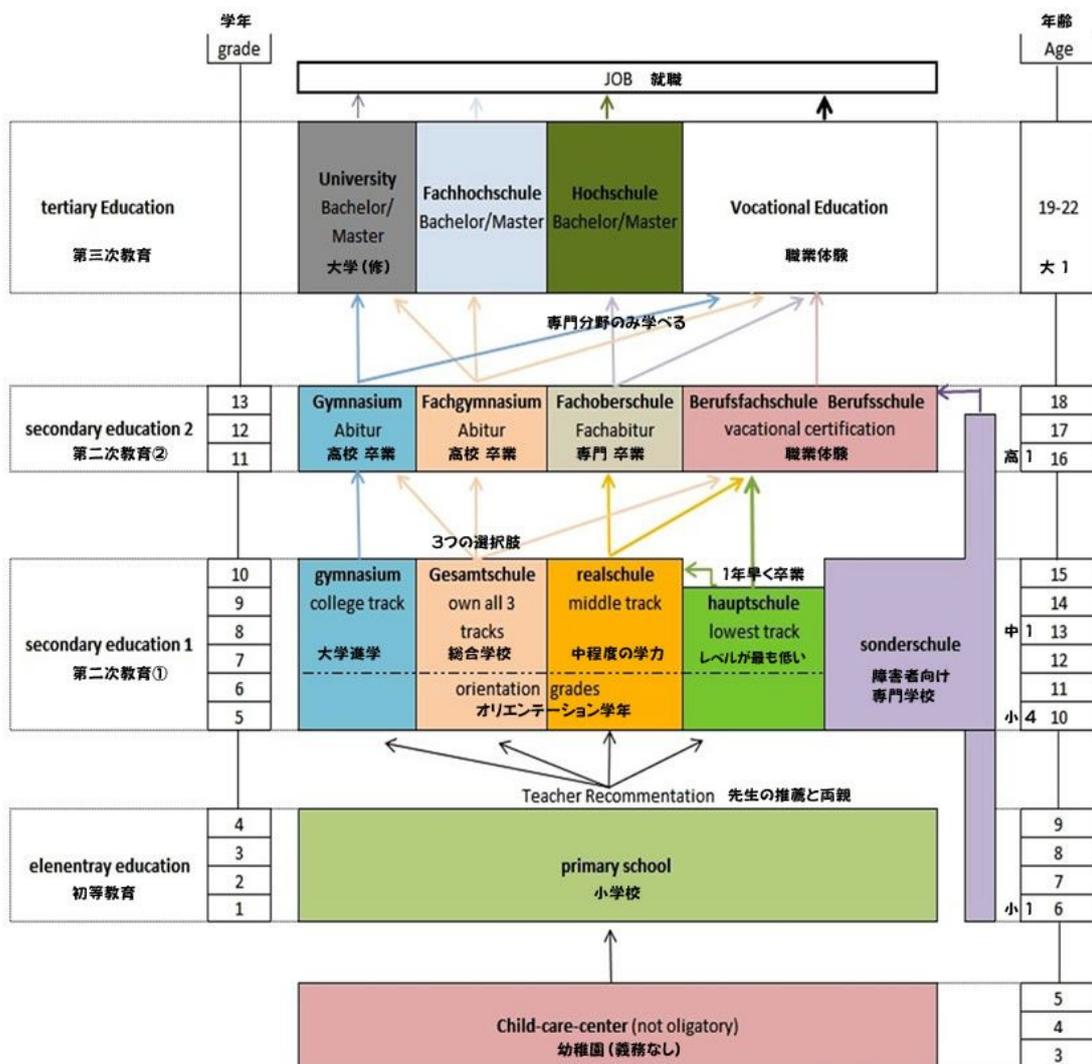
今回は、ドイツのキャリア教育についてご紹介します。

まずはドイツの学校のシステムについて紹介します。

なぜなら、ドイツでは将来あなたがどんな職業を選択したいかを早い段階で決めなければならないからです。

次の表を見てください。

一瞬混乱してしましますが、少しずつ説明していますので大丈夫です。



いろいろと見慣れない単語が多いと思いますので、この後の説明に出てくるドイツ語の単語を簡単に訳しておきます。

- Schule(シューレ):
school のドイツ語版です。
- Hauptschule(ハウトシューレ):
中学校にあたりますが、学力レベルは低め。
生徒たちは卒業後に職業体験へと進みます。
- Realschule(リアレシューレ):
ハウトシューレよりはレベルの高い中学校。
生徒たちは卒業後に職業体験か専門学校へ進みます。
ドイツでセカンダリースクールと呼ばれます。
- Gymnasium(ギムナジウム):
中学と高校の総称です。
学力が高く、大学進学を前提としている学校です。
- Gesamtschule(ゲサントシューレ):
総合的学校です。
ハウトシューレ・リアレシューレ・ギムナジウムの要素をすべて含んでいます。
- Abitur(アビトゥール):
高校で卒業すること。
- Fachabitur(ファツハアビトゥール):
専門的な高校で卒業すること。
その場合その後専門で選択してきた学問しか学ぶことができない。
- Hauswirtschaftsschule(ハウスヴィルトシャフトシューレ):
ハウスキーピングについて学ぶ学校。

■ドイツの学校について

ドイツの学校は、ほとんどの学校が共通して1年間で2つのパートに分かれています。最初のパートの終わりには、生徒は学校から中間通信簿を受け取り、最後のパートの終わりには年間通信簿を受けとります。

生徒は月曜から金曜まで学校に行き、週末は休みです。学校は朝 8 時から始まり、午後 1 時に終わります。学年が上がるにつれて、午後もしくは夕方の授業は延びていきます。

8時から1時までの授業では、20分間の大きな中間休みがあります。学校によって、授業間に短い休みがあるかどうかは違います。

授業1コマは45分で、サマータイムの時に学校にエアコンがなかった場合、30度を超える暑さだったら、30分ほどで終わるときもあります。

ドイツではクリスマス休暇(2週間)・イースター休暇(2週間)・夏休み(2週間)・秋休み(2週間)という休暇があります。これらはメインとなる休暇であり、ドイツのすべての州で共通する休暇です(ドイツの州は16州ある)。

州によっては、生徒が教科書を買わなければならないこともあるし、学校から借りることもできる場所もあります。

また、ほとんどのドイツの学校では制服はありません。現在、いくつかの学校では、制服ではないですが統一の学校の服を取り入れているところもあります。といっても、ほとんどの学校ではありません。

試験やテストの際には、生徒は宿題を毎日やらねばならず、一週間で終わらせなければならないタスクをまとめたウィークプランを提出します(A4で1枚くらい)。

もし宿題を終わらせなかったら、通信簿の成績は悪い評価(ドイツでは6:一番悪い)を受けることとなります。

学校の成績についても難しい制度をとっています。1が一番良い評価で、6がもっとも悪い評価です。もし6をつけられたら、試験やテストに合格することができません。6を受けたら、その授業を再び受けなければなりません。

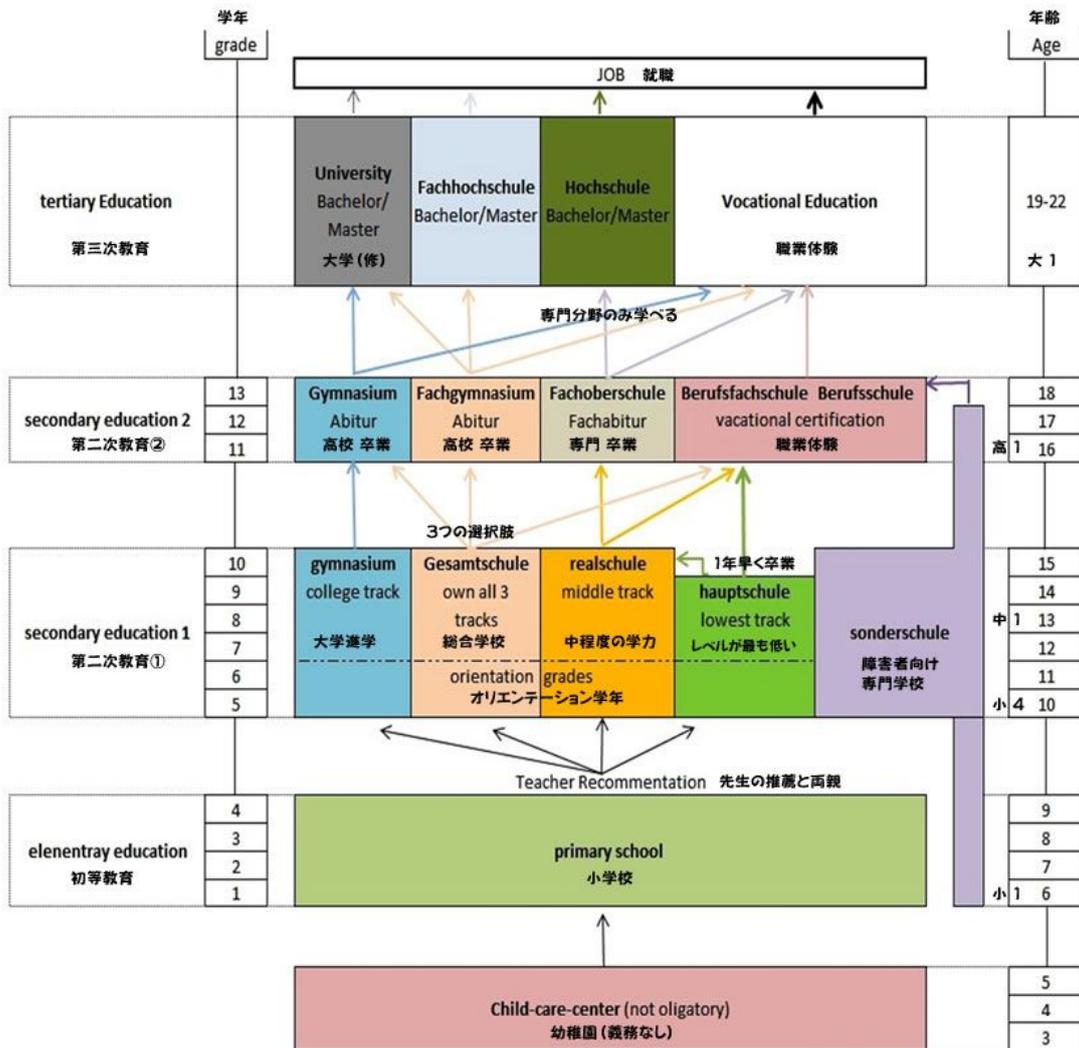
以下がすべての評価の詳細です。

- 1: とても良い・とても優れている
- 2: 良い・優れている
- 3: まあ良い
- 4: 満たしてはいる・十分ではある
- 5: 不完全である・足りないところがある
- 6: 不十分である・不合格

日本と共通しているのは、2 人の生徒と一緒に席につくということです。総合学校の Gesamtschule(ゲサントシューレ)では、生徒はグループで一緒に座ります。授業が行われている間に、生徒同士で話し合いが可能な点は良いことですが、先生にとってはすこしおしゃべりが多すぎるという不満もあります。

■学校に応じて進路は違う

さて、では先ほどの表についての説明に戻ります。



左の部分には、ドイツの教育が学年と共にどのような部門に分かれているのかという構造が書いてあります。

そして、右側にはその時生徒が何歳なのか、が書いてあります。

その他の部分には生徒がどのような道を選択できるかが書いてあります。

多くの子供たちは学校に通う前にチャイルドケアセンターに 3 歳から行き始めます(日本で言う幼稚園)。

ドイツでは共働きの家庭もありますし、子どもを他の子どもたちと一緒に過ごさせたいと考えている家庭もあるので、その場合はチャイルドケアセンターに通わせるのが一番メジャーな方法と言えます。

また、チャイルドケアセンターは人間教育に対する責任を持っているので、親にとっても大きな助けとなります。しかし、子どもを必ず入れなければならないというわけではありません。

チャイルドケアセンターを卒業すると、16歳まで学校は義務教育です。ドイツでは、学校にあえて行かない生徒は警察に補導されます。

ドイツの小学校教育は6～7歳から始まります。

初等教育は4年間で、子供たちは数学・英語・ドイツ語・音楽・鑑賞・体育だけではなく、大衆的で一般的なスキルや基本的な民主主義についても学びます。また、最初にはスクールキャンプも行っています。

初等教育の4学年目になると、子供たちが次にどのような進路を選択するかを親が決めなければなりません。担任はどの選択肢がベストなのかアドバイスをします。

次の進路として、4つの選択肢があります。

Hauptschule(ハウトシューレ)は最も学力レベルが低く、Realschule(リアレシューレ)は中程度、そして Gymnasium(ギムナジウム)は大学進学を目指す進路です。そして最後の1つが Gesamtschule(ゲサントシューレ):総合学校で、これだけがこの3つを網羅するので、次に説明をします。

これは本当に重要な決定で、この決定が将来の進路を決めるからです。

学校や教師にとっても将来の見込みは分からないので、5～6学年目で、学校を変えることができる可能性は残ってはいます。

■ Gesamtschule(ゲサントシューレ)について

すべての学校について紹介すると多くなりすぎてしまうので、ここでは総合学校である Gesamtschule(ゲサントシューレ)について紹介したいと思います。

Gesamtschule(ゲサントシューレ)は、他の学校で選べる進路をすべて選べるので全体像を把握しやすいと思います。

もし生徒が総合学校 Gesamtschule(ゲサントシューレ)に行ったなら、5～6 学年目で学校を変える必要はありません。その後を選ぶ 3 つのすべての学校に行けるからです。

5～6 学年目のときに、彼らは A クラスと B クラスに分けられます。A クラスは大学向け、B クラスはその他の進路向けです。

これらのクラスの違いは、数学・ドイツ語・英語(主専攻)です。他の教科においては、すべてのクラスで同じです。

Gesamtschule(ゲサントシューレ)では、A クラスから B クラスに変えたりすることがいつでも可能です。

それぞれの選択から 2 年目である 8 学年目(日本でいう中学 1 年)では、すべての生徒は 2 週間のインターンシップをしなければなりません。

インターンシップの前に、彼らは履歴書や申込書をどのように書くか、正しく書く方法を学びます。

しかし、全ての企業が生徒をインターンシップとして採用されるとは限りません。ですが、この学校のインターンシップは生徒が将来何になりたいかを見つける手助けになります。

9 学年目(日本でいう中学 2 年)は学力レベルの低い Hauptschule(ハウトシューレ)に進んだ生徒にとっての最終学年であり、何名かの総合学校に進んだ生徒にとってもラストの学年になります。

この時、彼らはさらに勉強するために他の学校に進むこともできますし、職業訓練をスタートすることも可能です。多くの生徒は 10 学年目に進みます。

私は総合学校 Gesamtschule(ゲサントシューレ)がすべてのタイプの生徒を含むので良い道だと思います。

うまくできない生徒は、できる生徒に助けをもらうこともできます。

私が学校にいた時、うまくできない生徒はより親切で、うまくできる生徒に、学校のことがすべてではないことを教えてくれました。

また、このタイプの学校の良い点は、グループワークで、彼らは全ての教科でプレゼンテーションを行います。

うまくできない生徒は学校でのプレゼンテーションが好きではないのですが、将来のためには、確証をもって自由に話す力はとても大切になってきます。

なるべく早いうちに、そしてより良い方法でそれを学ぶことができます。いずれにしろ、大学では必要になってくることだと思います。

グループワークは、みんなが一緒に取り組む時とても生産性があります。全員が自身の意見を言い、何がベストか討論します。

しかし、少数の生徒はそれらを休憩時間だとみなしていて、自分は何もせず他の生徒にやらせたりもします。

大学進学のコースは、高校を卒業するためにさらに 3 年を費やします。Abitur(アビトゥール): 高校卒業の証をゲットした生徒が大学に進学することができ、勉強や職業訓練を始めることができます。

Abitur(アビトゥール)もしくは Fachabitur(ファッハビトゥール)無しでは、勉強を続けることができません。

もし Fachabitur(ファッハビトゥール)を取得した場合は、その人は専門分野の勉強を続けることしかできません(例えば、それまで経済を習っていたなら経済の勉強しか続けられない)。もし Abitur を取得した場合は、医学を除いてすべての分野の勉強ができます。

■ドイツの職業訓練について

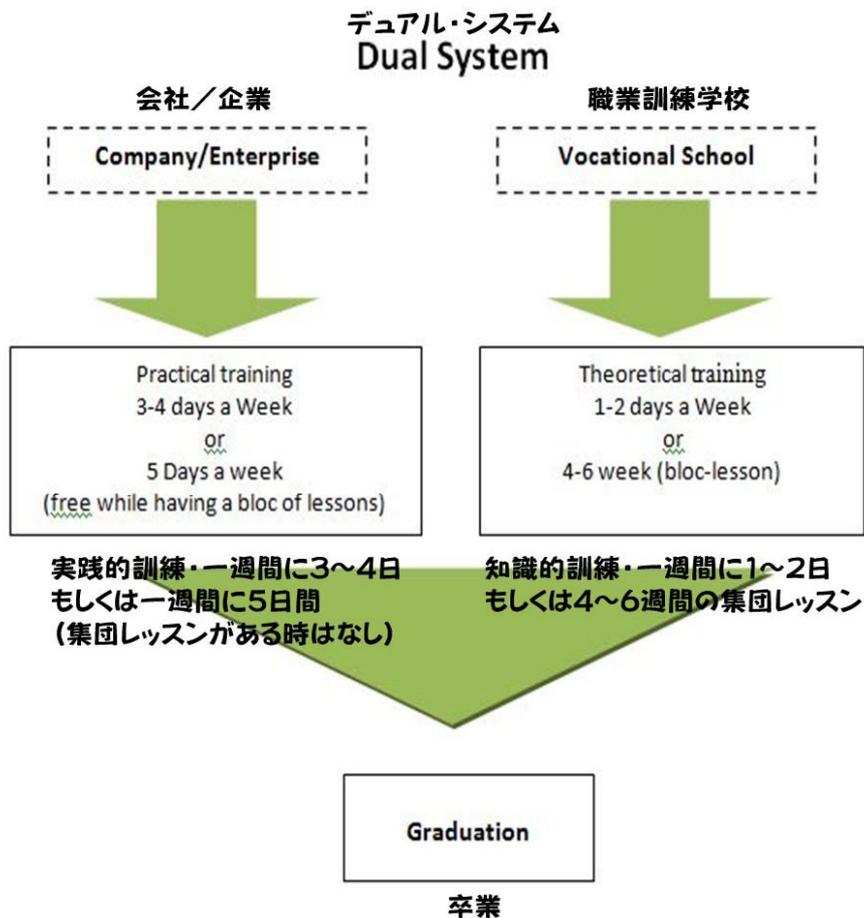
ドイツでは、2つのタイプの職業訓練があります。

1. Dual system(デュアル・システム)
2. Vocational School training(職業訓練学校)

1. デュアル・システム

このデュアル・システムはドイツでしか採用されていないものです。

ドイツでは、デュアル・システムによって、様々な職業に対する訓練(実習)を行うことができます。見習いの生徒は、彼らの仕事の分野で必要とされているスキルを身に着けるために、一週間で3~4日の実習を企業で行います。残りの1~2日は、彼らの将来つく仕事の分野での知識を学ぶために職業訓練学校で過ごします。また、3週間学校に行き、3週間企業に行く、ということも可能です。その職業訓練のタイプと状況によります。



2.職業訓練学校

職業訓練学校は、たいていは 1～3 年続けることができます。各生徒が将来仕事の為に必要としているすべてのことを、知識的と実践的トレーニングから学ぶことができます。

実習では、生徒は彼らの学んで得た実践的知識を活かして取り組まなければなりません。

また、全ての職業が学校で学べるわけではありませんが、職業訓練で、健康と看護、体育教師もしくはセラピストを含む医学や社会教育学も一通りあります。

他の専門分野については、学校でも学べます(秘書・外国語教師など)。また、例えば医療技術アシスタントや薬品従事者などの技術アシスタントも同じです。

■ドイツの職業体験について

ここで、いったん生徒が何をしたいのかを決めなければならない時に戻ってみましょう。彼らはどのように決めなければならないのでしょうか。どこに助けを求めるのでしょうか？

子どものときは、夢を沢山持っているものですが、成長するにつれ、世間は難しく、全てが私たちの夢を変えていくようになります。しばしば、私たちは自分のしたいことができなくなります。なぜなら、自分の身体的状況や精神的状況、また金銭的立場が関わってくることがあるからです。

マイナスな事実をお話する前に、ドイツの学生たちが彼らのやりたいことを見つけるために与えられるチャンスとは何かをお話したいと思います。

まず学生は、ジョブネットを通して職業体験に行くことができます。ジョブネットでは、様々な情報を得ることができます。

たとえば、履歴書の書き方・どんな仕事の機会があるか・学ぶことができる専門職は何か、などです。もちろん、そこに社員の方がアドバイスをしてくれます。

また専門職フェアも開催されます。そこで情報を得ることもできるし、同じ業界で働いている人と話すこともできます。学力が中程度の学校である Realschule(リアレシュューレ)は、生徒と一緒にそのフェアに行くことが多いです。

祝日には、生徒たちは彼らの興味のある仕事へインターンシップをすることもできます。

将来どんな仕事をしてみたいかを体験・発見するだけでなく、履歴書を書く手助けにもなります。

ただし、全ての生徒がそのようにするわけではありません:なぜなら支払(給料や手当)が出ないからです。もし長期間行ったらお金をもらえるかもしれませんが、確実にそうだとはいえません。

私は、友人たちに「どのように職業体験を見つけたか」を聞いてみました。

ラウラ:学校を出た後、どんなことをしたかったですか？また、どのようにそれを決めましたか？

Aさん:私は何か多様な変化のあることをしたかったです。また、学校ではビジネス経営が好きでした。でも、じっと座って机と一緒にいるようなことはしたくなかった。その時色々な意見を元に、広告とかを作ることがしたくて、イベントマネージャーになることを決めました。その後、職業体験の業種ガイダンスに行きました。

Bさん:私は学校にいたときに、スーパーで3週間のインターンをやっていました。その時、私はそれを将来やりたいとは思えなくて、学校でのインターンをしに行きました(それはしなければならなかったから、でもありますが)。好きなことが仕事になるのは1%の人だけだと思ったので、私は手に職をつけたくて。そこで仕事を得るのは難しいと思ったので、裁縫を勉強しました。つまり、私は仕事になる可能性の高いものを身に着けるようにした、ということですね。

ラウラ:つまり、あなたは他の助けなどはないままに何をしたいかを決めたということですか？

Bさん:そう、一人で決めました。

Cさん:私は色々なインターンシップを経験して、そこで就きたい仕事を決めました。

Dさん:私は経済の分野で何かしたかった、ということは分かっていたと思います。なぜなら、いつも私たちのスポーツクラブでの金銭管理をするのが好きだったし、学校の中で経済や法律のクラスをとっている人が多かったから。私にとっては、学びやすかったんです。でも、私の中で学校に長く行き続けたいと思っていないことも分かっていたので、大学に行くことやさらに勉強することは選択外でした。また、一日中会社の中にいるただの家具みたいにはなりたくなかったので、最終的に、ビジネスの分野でセールを担当するのがやりたいことになりました。

ラウラ:つまり、あなたはデュアル・システムの職業訓練で決めたということ？

Dさん:はい。16歳のときに病院でインターンシップをした時、私はこの仕事(病院での仕事)は自分には向かないなあと感じました。それよりも組織を運営するほうが好きだと思いました。

職業訓練の後、友達のうち 2 人が大学に行きました。

ドイツでは、たぶんですが、やりたいことを見つけたり努力したりすることはできますが、簡単ではないと思います。

だから学生は早い段階から将来のゴールに到達するために彼らの行きたい道を選択しなければなりません。

もちろん、これは簡単なことではなく、思春期の時には様々な変化もあります。学生が助けを得ることができる、と書いたように、おそらく彼らは両親や友人とも色々話しているでしょう。

また、以下の点も選択の際に考慮しなければなりません。

- ・その仕事をあなたが一生やりたいものか
- ・あなた自身が生きるためにしっかり稼げる仕事なのか
- ・職業訓練はハードであること
- ・興味、趣味、スキル、モチベーションも大事

最近では、多くの学生が「本当に私が何をしたいのか」ではなく、「より多くのお金が早く稼げる仕事なのか」を決めることができていないのではないかと私は感じています。

以下は、ドイツの学生が勉強している分野のトップ 3 です。

	男性	女性
1	ビジネス経営	ビジネス経営
2	機械操作・エンジニアリング	ドイツ語教師
3	情報関連(IT)	医学

■ドイツのキャリア教育のマイナス面について

では、次に、マイナス面を見ていきます。

1. 手工業分野が廃れている

多くの生徒たちは、手工業ではたらかたいと思っていません。なぜなら、この仕事は体に負荷をかける仕事であり、かつ働く時間の割に低賃金だからです。

2. すべての生徒が勉強をするための金銭的機会があるわけではない

社会的・経済的に困難な生徒もいます。最近では家族を支えるため、もしくは負担をかけないようにするため、大学に行く代わりに職業訓練を受けることを決意する学生もいます。

3. 卒業しても、学校のレベルが低い場合受け入れ先がないことも

もしあなたが学校では優秀ではなく、学年やレベルが低いまま勉強を終えた場合、ドイツでは仕事を得るのは大変難しいです。多くの会社は最終学歴(学年)を見ていて、その人物がいかにか何でも出来て、その仕事を学ぶ意欲が素晴らしくても、人物そのものは見てくれません。

大きな問題は、私たちが紙(履歴書や成績)に囚われすぎてしまうということ。良い学歴の人物がいたとして、その人が良い人格ではなかったとしても採用します。これは公正なのでしょうか？紙は私たちにその人物の性格までは教えてくれません。すべての、そして低い学歴の学生がその機会を得る権利がないのです。これは常にそうなのではなく、よく起こることではあります。

4. 同じ勉強をしている生徒ばかり

優秀な成績や学年の生徒は、仕事を得るのが難しいという問題があります。今、私の友人はビジネス経営の分野で修士の勉強をしています。彼女はとても優秀な成績で熱意のある学生ですが、彼女は仕事に就くのが難しいのです。なぜでしょうか。それは、ほとんどの生徒がビジネス経営分野を勉強していて、同じような職場を探しているからです。さらに、様々な国から来た学生も同じ分野で働きたいと思っているのです。一つの仕事に対し、200 人もの候補者がいるようなものです(仕事に対する倍率が高い)。

■ラウラの体験談

★チャイルドケアセンター

↓

★小学校

↓

★総合学校:ゲサントシューレ

↓

ドイツのほとんどの子どもがそうであるように、私(ラウラ)も小学校に通う前に地元のチャイルドケアセンターに行っていました。4年後(小学4年の時)、先生が私に「ハウトシューレが向いているよ」と薦めてくれたのですが、私も両親も総合学校(ゲサントシューレ)に行くことを決めました。ドイツでは、ハウトシューレの卒業証明では仕事に就くのが難しいからです。その後10学年目に、二つ目の卒業証明を得ました(小学校とゲサントシューレ)。

その時、私は何をしたいか全く分かっていませんでした。正直なところ、私は将来何をしたいかを見失っていて、なぜなら美容師になりたかったのですがアレルギーが発症してなれなくなったからです。そこで、私の先生が私に企業からの手紙をくれました。それはその会社でテクニカルイラストレーターとしての研修生を探している、というものでした。私は履歴書を書いて、職場面接の後そこで仕事に就くことになりました。この仕事は私にとってすごく退屈で、視力も落ちたし、そのせいでメガネをかけるようになりました。1年後、職業訓練を止めるかどうかというもやもやと向き合っていた中で、私は体調を崩し、そこで訓練を止めるに至りました。

↓

★デュアル・システムで職業訓練

↓

★病気になる

↓

★1年間、時間を取ることに

↓

★専門学校でハウスキーピングを学ぶ

私の記憶をたどると、1年間の休みの後、私は専門学校に行き始めました(ハウスキーピングの学校)。そして、最終的にそこで将来何をしたいのか、私にとって良いものは何かを見つけました。3年後、私は専門学校でハウスキーピングの資格を取得。そのまま行けば、私はハウスキーピングの教師になりたかったのですが、自分の病気によって、そうしないことを決めました。

あるホテルで何年か働く中で、私は世界中の人々と会うのが好きだと思うようになりました。たくさんのことを学ぶことができるし、毎日が新しく違って見えました。

今、私は一定でずっと働き続ける仕事には就いていません。私が行きたい時に行ける場所での仕事をしていて、働くために十分良いと感じています。5~6時間ほど一日に働いています。最近、1日に4時間の仕事にも行っていましたが、それは毎日あるものでした。もちろん給料は普通の定職よりも低いのですが、でもそれでいいです。私にとっては、このやり方のほうがいいなと思っています。

しかしながら、結局は全ての人々が何をしたいか・どこが良いと感じるのかを決めなければなりません。